

全国障害者スポーツ大会 大会開催基準要綱の改正概要

■令和8年度(青森大会)での改正

1. 第30回大会からの大会名称変更について

令和13年に奈良県で開催する第30回全国障害者スポーツ大会より「全国パラスポーツ大会」に名称を変更することを明記した。

2. グランドソフトボール競技における競技名の変更(令和4年度合同会議公表済)

「全日本グランドソフトボール連盟」の名称変更に伴い、競技名も「グランドソフトボール」から「ブラインドベースボール」へ名称を変更する。

■令和9年度(宮崎大会)以降の改正

1. ユニフォーム規程について(令和5年度合同会議公表済)

以下のとおり、参加選手団のユニフォームについて「全国障害者スポーツ大会ユニフォーム規程」を定め、大会開催基準要綱に表記する。なお、第26回大会(令和9年度)より、適用することとする。

〈参考〉

参加選手団は、大会の式典（総合開閉会式、各競技会の開始式並びに表彰式）及び競技中においては、別に定める「全国障害者スポーツ大会ユニフォーム規程」に基づくユニフォームを着用するものとする。

- (1) 各都道府県・指定都市選手団が大会期間中の総合開・閉会式並びに競技会場内等において着用するウォームアップウェア等の選手団共通の衣服
- (2) 各都道府県・指定都市選手団が競技中に着用する競技別ユニフォーム

■令和10年度(長野大会)以降の改正

1. 精神障害者の参加資格(資格要件)の見直しについて

段階的に見直しを進めてきた全国障害者スポーツ大会の参加資格について、日本精神保健福祉連盟の調査報告・提案等に基づき、障害程度の均てん化・平等性の促進のため、令和10年度の長野大会より、精神障害者保健福祉手帳所持者に限定することとする。

■令和8年度(青森大会)での改正

1. 陸上競技規則の一部見直しについて

ビーンバッグ投げについて、会場仕様の関係でより適切な場合は、円盤投げのサークルでなく砲丸投げのサークルを使用しても良いこととした。また、立幅跳の踏切りについて、下肢切断の選手は義足を使用せず健足のみで踏切っている事例が実際にあることから、片足踏切りを認めるように規則の整合性をとった。

2. 水泳競技 障害区分23 ブラックゴーグルの装着について

障害区分23の競技者が装着する光を通さないゴーグルについて、招集所で競技役員が確認し、そのゴーグルはプールに入場する時から競技終了まで外してはならない規則であったが、競技役員による確認後から競技開始までの間であれば、装着のタイミングは選択できるようにした。

3. 水泳競技 障害区分23 25m種目における介助について

障害区分23の25m種目において、安全に競技を実施するため、スタートまでの介助者1名と別にゴールサイドのタッピング者1名を必ず配置することを明文化した。

4. フライングディスク ディスタンスの競技エリアに関して

審判員の衝突や危険防止など、安全かつスムーズな競技運営のためにサイトの横幅を明確にした。

5. ボッチャの競技規則の一部見直し(スポーツアシスタントの取り扱い)について

滋賀大会で改正した内容であるが、本来選手1名につきランプオペレーター、あるいはスポーツアシスタントを1名までしかつけられないところ、2名が認められるような解釈も出来たため、文言を一部変更し、表現をわかりやすくした。

【ポイント】

- ・ランプ使用者にはランプオペレーターをつけることができる
- ・移動が困難な方(立位、座位とわず)にはスポーツアシスタントをつけることができる
- ・ランプオペレーター、あるいはスポーツアシスタントがつけられるのは、それぞれの選手にどちらか1名まで。

6. グランドソフトボール競技規則の見直しについて

競技名の変更に伴う各記載の修正の他、主だった改正点として、全盲守備者が打球を処理する際の規程について、従来は「打球が放たれた瞬間」に守備側が発声することを認めていたが、この規定を撤廃し、「守備側(守備中の全盲野手を除く)からの方向指示を全面禁止する」形に改めた。

■令和9年度(宮崎大会)以降での改正

1. 水泳におけるリレーの実施方法の見直しについて(※令和6年度合同会議公表済)

水泳におけるリレーでは、これまで知的障害者を対象として、4×50m フリーリレーと4×50m メドレーリレーの2種目が行われているが、現状では、参加チーム数が極端に少なく、エントリーできない選手団からは見直しを求める意見が出されている。

そこで、リレーに参加できる障がい種別を拡大し、身体障害、知的障害の男女混合で参加できるようにし、少しでも多くの選手団に参加の機会が提供されるようにした。

令和9年(2027年)の宮崎大会より導入する。

○実施方法およびエントリー方法は以下のとおり

実施種目は、現状通り4×50m フリーリレーと4×50m メドレーリレーの2種目とする。エントリーも、「都道府県政令指定都市単位」とし、各種目1チームずつを原則とする。チーム編成は、男女混合、身体・知的区分混合、年齢区分なしとする。男女及び身体・知的区分混合については、それぞれ各2名でなくてよいこととする。(4名の内、1名が男子または女子、かつ1名が身体または知的区分であればよい)

また、エントリー時(申込時)に記載の申請するエントリータイムに基づき、競技の組み合わせには配慮を行うものとする。

なお、現状は、各地域でのチームづくりの推奨・普及の観点から都道府県政令指定都市単位の参加を原則とするが、より多くの選手に出場機会を創出するために、都道府県政令指定都市合同チームでのエントリー等についても、継続して検討する。

2. 年齢区分の見直しおよび変更について(※令和4年度合同会議公表済)

障がい別・競技別に個人競技の参加選手の年齢の検証を行い、以下の4点について検討を進めてきた。令和9年(2027年)の宮崎大会より導入する。

- ①身体障害者、知的障害者の区分を統一する。
- ②年齢区分は4区分にする。
- ③参加状況に応じて、競技種目の「年齢共通」を設置することができる。(例:1部と2部が同区分で競技する等)
- ④年齢区分の対象競技は、陸上競技、水泳、卓球(身体・知的)、フライングディスク、ボウリングとする。

【改正】

- (1)1部(19歳以下)
- (2)2部(20~39歳)
- (3)3部(40~59歳)
- (4)4部(60歳以上)

3. 障害区分の見直しおよび変更について(※令和6年度合同会議公表済)

陸上競技、水泳の障害区分の検証を行い、新たな障害区分を導入することとした。なお、現行の障害区分(陸上競技計28区分、水泳競技計26区分)をそれぞれ見直し、区分統合を含め、それぞれの障害区分を5区分程度減らす方向で見直しを行った。

また、知的障がい新たにダウン症の障害区分を導入し、低身長障害区分については、体幹の障害区分に新たに加えることとした。

また、新年齢区分の導入に伴い、出場可能種目について整理を行った。参加状況に応じた、競技種目の「障害区分共通」を設置することとした。令和9年(2027年)の宮崎大会より導入する。

○低身長およびダウン症の参加要件に関する概要

◎低身長の区分に関する参加要件

<参加資格>

- 身体障害者手帳または、医師による下記疾病の証明書(診断書含む)か下記疾病が確認できる医療受給者証
・成長ホルモン分泌不全症、甲状腺機能低下症など
- ・染色体の病気(ターナー症候群、プラダー・ウィリー症候群、ヌーナン症候群など)
- ・子宮内発育不全(SGA 性低身長症など)
- ・骨や軟骨の病気(軟骨無形成症、軟骨低形成症など)
- ・心臓・肝臓・腎臓などの臓器の異常による低身長

<身長基準> ※13歳から参加可能となるため、疾病であることを前提とした設定とする。

●男性145cm以下

○女性137cm以下

◎ダウン症の区分に関する参加要件

<参加資格>

- 療育手帳(愛の手帳、みどりの手帳等)の交付を受けた者。あるいは、その取得の対象に準ずる障害を認める書類を所持している者。
- 自己申告チェックシートによるダウン症であることの確認および競技参加が可能であるもの。

<療育手帳(愛の手帳、みどりの手帳等)の取得の対象に準ずる障害を認める書類>

- a. 児童相談所・知的障害者更生相談所長の判定書の写し
- b. 医師の診断書
- c. 在籍(在学、通所、入所)又は卒業(退所)先の所属長による証明書

<自己申告チェック項目>

- ① ダウン症であることを診断されている(染色体型は問わない)
- ② 首(頸椎)の不安定性(亜脱臼)を伴う神経症状や身体所見が見られない
(あごを胸につけることができる)
 - ・スポーツ時における特別な配慮は不要である
 - ・出場希望種目への参加が可能である
- ③ 心臓や呼吸器系などに合併症がない。または合併症があったが治療済みである
(軽い運動で息切れすることや脈の乱れはない)
 - ・スポーツ時における特別な配慮は不要である
 - ・出場希望種目への参加が可能である

4. ダウン症選手の参加に伴う自己申告チェックシート(※令和6年度合同会議公表済)

ダウン症の合併症として、首(頸椎)の不安定や心臓疾患が知られている中、運動による新たな障害の発生や障害の重度化を予防する必要がある。そこで、本大会にダウン症の障害区分で出場する際に、大会に安心・安全に出場することを目的とした、選手本人以外が記入する自己申告チェックシートを導入することとする。令和9年(2027年)の宮崎大会より導入する予定。

<自己申告チェック項目>

- ③ダウン症であることを診断されている(染色体型は問わない)
- ④首(頸椎)の不安定性(亜脱臼)を伴う神経症状や身体所見が見られない
(あごを胸につけることができる)
 - ・スポーツ時における特別な配慮は不要である
 - ・出場希望種目への参加が可能である
- ③心臓や呼吸器系などに合併症がない。または合併症があったが治療済みである
(軽い運動で息切れすることや脈の乱れはない)
 - ・スポーツ時における特別な配慮は不要である
 - ・出場希望種目への参加が可能である

全国障害者スポーツ大会におけるダウン症選手の参加エントリーに伴う 自己申告チェックシート

記入日 年 月 日

ダウン症の合併症として、首(頸椎)の不安定や心臓疾患が知られています。この自己申告シートは、ダウン症であることの確認および大会参加の可否を判断する参考資料として提出いただくものです。ダウン症の障害区分で出場希望の方は以下の内容を確認し記入してください。
 なお、**本人以外の方(ご家族や主治医などご本人の様子が見える方)が記入してください。**
 *以下の内容について、確認や質問のためにご連絡する場合がございます。

選手氏名		所属県・市	
出場希望競技		出場希望種目	
記入者氏名		選手との関係 (続柄)	
記入者連絡先	TEL MAIL		
<input type="checkbox"/> ① ダウン症であることを診断されている			
<input type="checkbox"/> ② 首(頸椎)の不安定性(亜脱臼)を伴う神経症状や身体所見が見られない (あごを胸につけることができる) ※チェックをした場合には、以下の2つの項目についても確認ください。			
首(頸椎)に関すること	<input type="checkbox"/> スポーツ時における特別な配慮は不要である <input type="checkbox"/> 出場希望種目への参加が可能である		
<input type="checkbox"/> ③ 心臓や呼吸器系などに合併症がない。または合併症があったが治療済みである (軽い運動で息切れすることや脈の乱れはない) ※チェックをした場合には、以下の2つの項目についても確認ください。			
心臓・呼吸器系に関すること	<input type="checkbox"/> スポーツ時における特別な配慮は不要である <input type="checkbox"/> 出場希望種目への参加が可能である		
その他 申送り事項等			

チェックリストの回答判断が難しい項目がある方、また以下に当てはまる方は、主治医ほか医療機関を受診し、大会参加の可否について相談してください。

- 病院で首のことで運動を控えるように注意されている
- 病院で心臓のことで運動を控えるように注意されている

※運動による新たな障害の発生や障害の重度化を避けるために、首や心臓等に心配がある方は、医療機関の受診をお勧めします。